

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

CLIPPEDIMAGE= JP411192019A

PAT-NO: JP411192019A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11192019 A

TITLE: GARDENING POT STAND AND POT

PUBN-DATE: July 21, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NAGANO, MASAHIRO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NARIHIRA:KK	N/A

APPL-NO: JP10128053

APPL-DATE: April 2, 1998

INT-CL (IPC): A01G009/00;A47G007/02

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pot stand designed to rotate a pot formed on the top of the stand body as slowly as possible by the aid of a motor as power source without fixing the gardening pot at a given position, and to provide the above-mentioned pot.

SOLUTION: The pot 2 is formed on the top of the pot stand body 3, and to the stand body 3, a driving motor 1 is attached and the pot 2 is connected with a driving plate 4 via the power transmission means of the driving motor 1.

COPYRIGHT (C) 1999 JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-192019

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月21日

(51) Int.Cl.*

識別記号

F I

A 0 1 G 9/00

A 0 1 G 9/00

B

C

A 4 7 G 7/02

A 4 7 G 7/02

A

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-128053

(22) 出願日 平成10年(1998) 4月2日

(31) 優先権主張番号 特願平9-333444

(32) 優先日 平 9 (1997) 10月28日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 597169177

株式会社ナリヒラ

群馬県高崎市浜川町391-5

(72) 発明者 長野 正弘

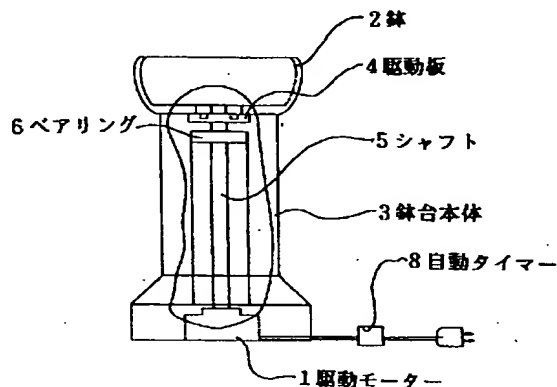
群馬県高崎市浜川町966

(54) 【発明の名称】 園芸用鉢台と鉢

(57) 【要約】

【課題】園芸用鉢を一定位置に固定させることなく、鉢台本体上部に形成した鉢を、モーターを動力原として最小限度でゆっくり回転させる目的の園芸用鉢台と鉢を提供するものである。

【解決手段】鉢台本体(3)の上部に鉢(2)を形成する、そして鉢台本体(3)に駆動モーター(1)を取りつけその動力伝達手段をへて、駆動板(4)と鉢(2)をつなぐ。



【特許請求の範囲】

【請求項1】鉢台本体（3）の上部に鉢（2）を形成する、そして鉢台本体（3）に駆動モーター（1）を取りつけその動力伝達手段をへて、駆動板（4）と鉢（2）をつなぐ、園芸用鉢台と鉢。

【請求項2】駆動板（4）と鉢（2）の代わりに、鉢置き板（9）として、鉢置き板（9）に螺子式で自在に動くストッパーバー（10）を取りつけた、請求項1の園芸用鉢台と鉢。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、園芸用鉢を一定位置に固定させることなく、鉢台本体上部に形成した鉢を、モーターを動力原として最小限度でゆっくり回転させる目的の園芸用鉢台と鉢に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、園芸用鉢上にある植物はおもに一定方向のみ光が当たる為に、植物に表裏が明確に分かれ特に裏側が見苦しくなった。そこでその形態とならぬよう人間の手により時々、回してやる必要があつた。また鑑賞用としては、園芸用鉢が固定であつたので、置き場所にもよるが全体が見られず側面のみ鑑賞しかできないことが多かったさらに、園芸用鉢上にある植物を固定して鑑賞していたので、装飾的付加価値を見出す工夫が要求された。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は従来の欠点を解決するためのもので、以下にそれを述べます、イ、園芸用鉢上にある植物及び花等が人間の手を煩わせずとも、表裏が分けない園芸用鉢とする。。ロ、鑑賞用として、人間が一定位置において、全局が見られること。。

ハ、植物及び花が、風で舞うように見えるよう装飾的価値をだすこと。

ニ、植物の入っている植木鉢がそのまま載せられるように、小鉢から大鉢までが対応できるようにすること。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上記課題を解決する為のもので、鉢台本体（3）の上部に鉢（2）を形成する、そして鉢台本体（3）に駆動モーター（1）を取りつけその動力伝達手段をシャフト（5）とベアリング（6）を用いて、駆動板（4）と鉢（2）をつなぐ。

【0005】そして、植物の入っている植木鉢が、小鉢から大鉢までがそのまま載せられるように、駆動板（4）と鉢（2）の代わりに、鉢置き板（9）として、鉢置き板（9）に螺子式で自在に動くストッパーバー（10）を取りつけた。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明を使用するときは、まず電気のスイッチを入れると鉢台本体（3）に取りつけた駆

動モーター（1）に電源がはいり駆動する、そして動力伝達手段のシャフト（5）とベアリング（6）をへて駆動板（4）と鉢（2）が同時に回転する、すると鉢（2）の中にアレンジされた植物及び花が光に当たりながら舞い、色彩豊かに表現する。

【0007】また、駆動板（4）と鉢（2）の代わりに鉢置き板（9）を使用して、植物の入っている植木鉢を載せて固定するが、まずストッパーバー（10）の螺子を緩めて、鉢置き板（9）に植木鉢を載せる、そして鉢の大小にストッパーバー（10）を合わせて螺子を締めて固定する、よって小鉢にはいつた植物から大鉢に入った植物が違和感なく載せられる、あとは電気のスイッチを入れると鉢台本体（3）に取りつけた駆動モーター（1）に電源がはいり駆動する、そして動力伝達手段のシャフト（5）とベアリング（6）をへて鉢置き板（9）及び植物の入っている植木鉢が同時に回転する。

【0008】

【実施例】以下、本発明の実施例について説明する。図1、に示すように、鉢台本体（3）の上部に鉢（2）を形成する、そして鉢台本体（3）に駆動モーター（1）を取りつけ、その動力伝達手段は滑らかな回転を可能にする為荷重の負荷を軽減すべくシャフト（5）にベアリング（6）を用いて、駆動板（4）と鉢（2）をつないだ。

【0009】図2、に示すように、鉢台本体（3）の上半分の位置に、駆動モーター（1）を取りつけ、寸法の短いシャフト（7）にベアリング（6）を用いて、駆動板（4）と鉢（2）を回転させても、同様の効果があつた。

【0010】図1、図3、に示すように、本発明を使用するときは、まず電気のスイッチを入れると鉢台本体（3）に取りつけた駆動モーター（1）に電源がはいり駆動すると同時に動力伝達手段のシャフト（5）とベアリング（6）をへて駆動板（4）と鉢（2）が同時に回転する、すると鉢（2）の中にアレンジされた植物及び花が光に当たりながら舞い、色彩豊かに表現する。また自動タイマー（8）を本発明に組み込むと、用途は拡大されしかも大変便利に使用できる。

【0011】さらに鉢（2）は約一分間で一回転させると装飾的価値が非常にあがつた。また鉢（2）の使用方法是、そこに直接植物を入れて使用するほか、鉢植えの植物を鉢ごと鉢（2）に入れて使用することもできる。そして屋外では鉢植え植物を主体に、屋内では生花、造花を主体にして造形美術を高めることが出来た。

【0012】図4、に示すように、駆動板（4）と鉢（2）の代わりに、鉢置き板（9）として、鉢置き板（9）を螺子で固定した、またこの部分は溶接で固定しても効果は同じである。鉢置き板（9）に螺子式で自在に動くストッパーバー（10）を取りつけた。この取り付け方法は溶接でおこなったが、螺子でとめても効果は

3

同じである。ほかにストッパーバー(10)は一台につき3箇所て固定する方法が一番有効であった。なお鉢置き板(9)に載せられる重量は20キログラムまで可能であった。本発明を使用するときは、駆動板(4)と鉢(2)の代わりに鉢置き板(9)を使用しているだけなので、電源のスイッチを入れるだけで使用ができる。

【0013】

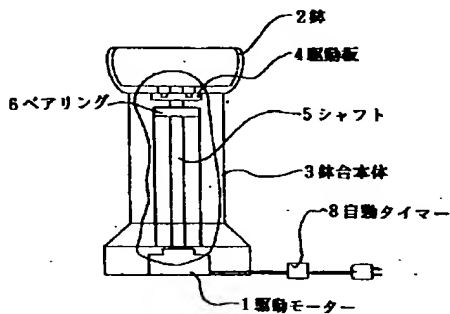
【発明の効果】イ、園芸用鉢上にある植物及び花等が自動で回転できるので、表裏が分かれず形が良くなった。ロ、鑑賞用として、鉢(2)が回転するので植物および花が風に当たり舞うように見られ、しかも鉢上の植物の全周が見られるようになり装飾的価値が上がった。ハ、鉢(2)は回転することにより、鉢上の植物に風の入りが良くなったので、下葉は枯れず病気が入りにくく植物の寿命が長くなった。

ニ、植物の入っている植木鉢がそのまま載せられるようになり、また小鉢から大鉢まで対応できるようになった。

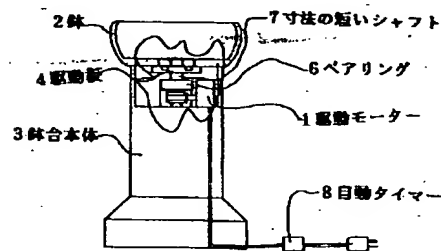
以上本発明は、簡単な構造にて、様々の効果があります。

20 11 植木鉢

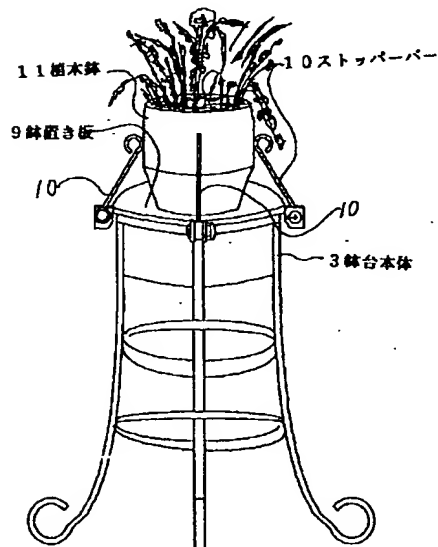
【図1】



【図2】



【図4】



【図3】

